

# 第1章

「世界一の都市・東京」を目指して

# 東京都長期ビジョンの構成

目指すべき 将来像  
「世界一の都市・東京」の実現

将来像の実現に向けた 2つの「基本目標」

## 基本目標Ⅰ：史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現

- \*2020年の東京の姿、レガシーの継承
- \*オリンピック・パラリンピック開催を起爆剤とした都市の発展

## 基本目標Ⅱ：課題を解決し、将来にわたる東京の持続的発展の実現

- \*少子高齢・人口減少社会への対応をはじめ、山積する課題を解決

### 《基本目標Ⅰ》

「史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現」

#### 1 成熟都市・東京の強みを生かした大会の成功

政策指針：1～4

#### 2 高度に発達した利用者本位の都市インフラを備えた都市の実現

政策指針：5～6

#### 3 日本人のこころと東京の魅力の発信

政策指針：7～8

### 《基本目標Ⅱ》

「課題を解決し、将来にわたる東京の持続的発展の実現」

#### 4 安全・安心な都市の実現

政策指針：9～10

#### 5 福祉先進都市の実現

政策指針：11～14

#### 6 世界をリードするグローバル都市の実現

政策指針：15～19

#### 7 豊かな環境や充実したインフラを次世代に引き継ぐ都市の実現

政策指針：20～23

#### 8 多摩・島しょの振興

政策指針：24～25

### 政策全体に共通する5つの視点

経済の活性化と生活の質の向上

先端技術の積極的な活用

ハードとソフトの融合

女性の活躍、高齢者の社会参加

官民の政策連携と規制緩和

政策の方向性を示す  
8つの「都市戦略」

**基本目標Ⅰ**

**史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現**

**都市戦略1 成熟都市・東京の強みを生かした大会の成功**

(政策指針1) 2020年大会の成功に向けた万全な開催準備とレガシーの継承

(政策指針2) 美しく風格があり、誰もが安心して過ごせるバリアフリー環境の構築

(政策指針3) 多言語対応の推進により、全ての外国人が快適かつ安心して滞在できる都市の実現

(政策指針4) 世界に存在感を示すトップアスリートの育成とスポーツ都市東京の実現

**都市戦略2 高度に発達した利用者本位の都市インフラを備えた都市の実現**

(政策指針5) 陸・海・空の広域的な交通・物流ネットワークの形成

(政策指針6) 誰もが円滑かつ快適に利用できる総合的な交通体系の構築

**都市戦略3 日本人のこころと東京の魅力の発信**

(政策指針7) 「おもてなしの心」で世界中から訪れる人々を歓迎する都市の実現

(政策指針8) 芸術文化都市を創造し、日本文化の魅力を世界に発信

**基本目標Ⅱ**

**課題を解決し、将来にわたる東京の持続的発展の実現**

**都市戦略4 安全・安心な都市の実現**

(政策指針9) 災害への備えにより被害を最小化する高度な防災都市の実現

(政策指針10) 日常に潜む危険や犯罪から都民を守る、安全・安心の確保

**都市戦略5 福祉先進都市の実現**

(政策指針11) 安心して産み育てられ、子供たちが健やかに成長できるまちの実現

(政策指針12) 高齢者が地域で安心して暮らせる社会の実現

(政策指針13) 質の高い医療が受けられ、生涯にわたり健康に暮らせる環境の実現

(政策指針14) 障害者が地域で安心して暮らせる社会の構築

**都市戦略6 世界をリードするグローバル都市の実現**

(政策指針15) 日本の成長を支える国際経済都市の創造

(政策指針16) 都心等の機能強化による東京の都市力の更なる向上

(政策指針17) 若者や女性、高齢者など全ての人が活躍できる社会の実現

(政策指針18) 東京、そして日本を支える人材の育成

(政策指針19) 2020年大会の成功と東京の発展に寄与する都市外交の推進

**都市戦略7 豊かな環境や充実したインフラを次世代に引き継ぐ都市の実現**

(政策指針20) スマートエネルギー都市の創造

(政策指針21) 水と緑に囲まれ、環境と調和した都市の実現

(政策指針22) 都市インフラの安全性を高め、安心できる社会の確立

(政策指針23) 少子高齢・人口減少社会におけるこれからの都市構造

**都市戦略8 多摩・島しょの振興**

(政策指針24) 多摩・島しょ地域の発展・成熟したまちづくりに向けた環境整備の推進

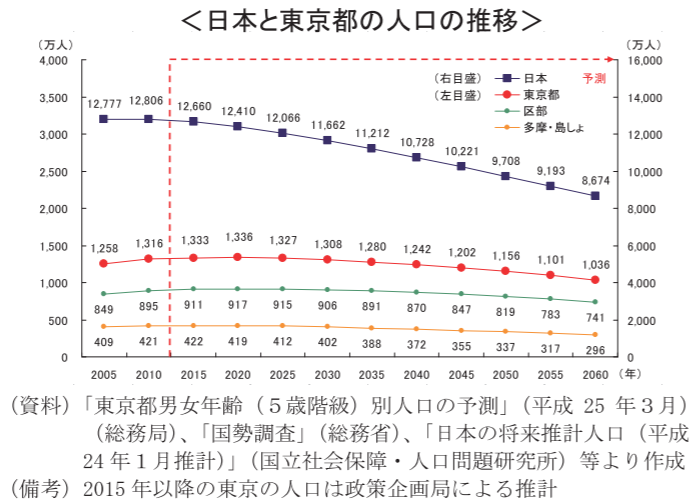
(政策指針25) 多摩・島しょの豊かな自然を生かした地域の活性化

# 東京の人口の推計

人口フレームは、長期の政策を展望する上で不可欠の要素である。日本の人口はすでに減少に転じているが、これまで人口が増加傾向で推移してきた東京においても、人口減少が懸念されている。そこで、2060年までの東京の人口の推移を推計した。

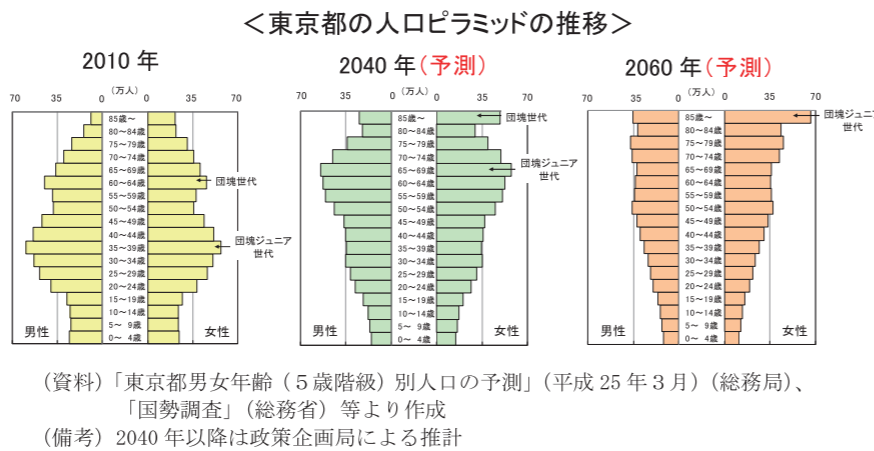
## 東京の人口は約2割減少

- 東京の人口は、今後しばらくは増加を続けるものの、2020年の1,336万人をピークに減少に転じ、2060年には、1,036万人になり、2010年に比べ約2割減少することが見込まれる。
- 地域別にみると、区部は2020年、多摩・島しょ地域は区部より若干早く2015年に、人口のピークを迎える。

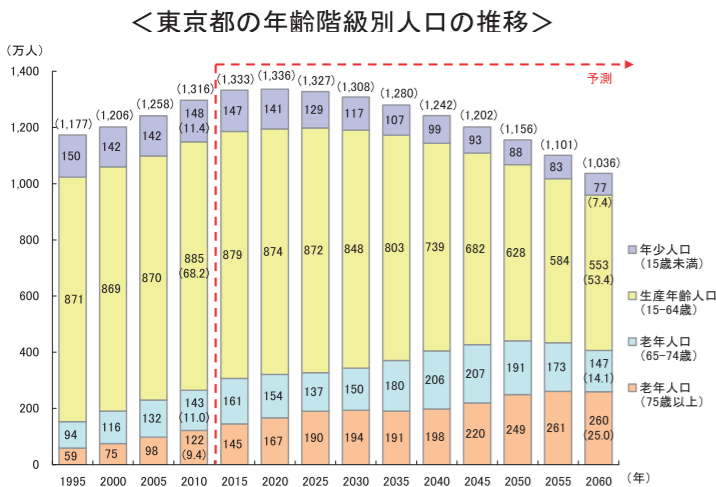


## 東京の人口ピラミッドは“つぼ型”に

- 東京の人口ピラミッドの形状は、団塊ジュニア世代が全て65歳を超える2040年には老年人口(65歳以上人口)が一層膨らむ形状になり、2060年には、年少人口(15歳未満人口)の割合が低く、老年人口の割合が高い“つぼ型”に変化していく。



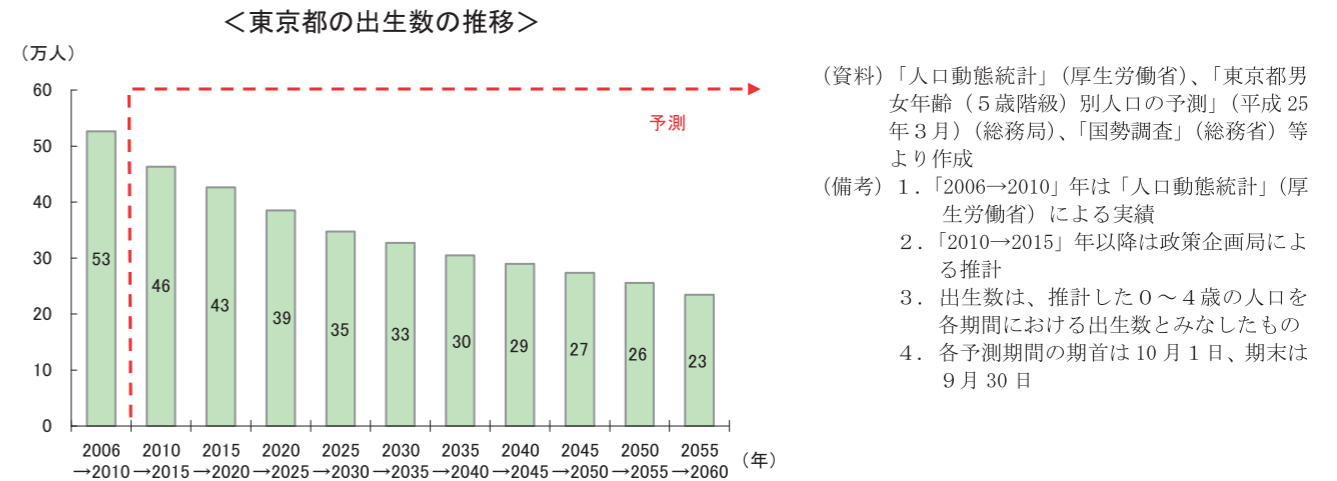
## 現役世代1.4人で1人の高齢者を支える時代に



- 2010年には現役世代(生産年齢人口)3.3人で1人の高齢者(65歳以上)を支えていることになるが、少子高齢化の進行により、2060年には1.4人で1人の高齢者を支えることになる。

## 出生数が半分以下に

- 2006年から2010年の5年間の出生数の合計は約53万人であるが、少子化の進行により、2055年から2060年の5年間に於ける出生数の合計は約23万人まで減少すると見込まれる。2015年以降は15～49歳の女性の人口の減少が、出生数の減少に大きな影響を与えようと考えられる。



## 自然減の拡大と社会増の縮小により人口が減少

- 東京の自然増減は今後、高齢化に伴い高齢者の死亡数の増加が見込まれることから、自然減の一層の拡大が見込まれる。
- 東京の社会増減は、今後も転入者数が転出者数を上回る状態(社会増)が続くものの、全国的な人口減少の影響により、社会増の縮小が見込まれる。

